

道岳連だより

広報 NO.88
令和2年1月5日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

2020 年頭あいさつ

北海道山岳連盟 会長 小野 倫夫



明けましておめでとうございます

令和になって初めてのお正月、皆さんいかがお過ごしでしょうか

昨年は19号台風が象徴した自然災害は、ここ数年来で異常気象が異常気象でなくなってきたのは、温暖化とともに今後に不安を感じさせます。山の日が制定され、山を愛するわれわれは、浮かれていたのかもしれませんが。山に対して、親しみをもちすぎ、畏敬の念とその恩恵に対し感謝の気持ちを疎かにしてきたのでしょうか。

昨年、北海道山岳連盟の、各委員会、部門の行事は、台風、豪雨や数年来の自然災害後遺症で、山道、林道の決壊、崩壊のため、制限された中、目的に合わせた企画を工夫しながらほぼ、実施しました。

第33回全道交流登山会は、8月24、25日岩見沢岳連、美唄山岳会、登攀道場美唄の主管で開催されました。交流会はこの一年に物故された道岳連関係者を偲びながら、主管3団体のきめ細やかなおもてなしで年一度の出会いを楽しみました。翌日の行動は、美唄山が熊出没のため中止となりましたが、他のコースや別な山へ変更して実施しました。

国体は久しぶりに天皇杯入賞を果たし、入賞を逃した女子も成長が著しいジュニア女子の今後の活躍を期待します。

11回目の「安全登山シンポジウム」は5月30日、筑波大で遭難事故について研究している久保田賢次氏による講演「山岳メディアで経験した山の事故対策と環境保全」と道警の遭難実態報告、救助信号{ココヘリ}の久我一総氏の講演があり、全国ワースト2位という北海道の山岳遭難についての認識と遭難事故減少に意識の高まりを感じました。

また9月14～16日、国立登山研修所・日山協主催の「安全登山指導者研修会」東ブロックを道岳連が主管し藤原研修所長・八木原会長、水島登山部長をはじめ講師に渡辺雄二(国立登山研修所)大城和恵(国際山岳医)森山知洋(気象予報士)と北海道警察より松本孝志(旭川方面地域官)・尾崎雅義(航空隊特務補佐)、道警旭川方面本部協力による大雪山旭岳を実技会場とし、講義・演習を東川キトウシ森林公園で実施、遭難、骨折などの実技講習を含め全国レベルの充実した研修会でした。なにより道岳連役員で参加した実技講師、スタッフの皆さんの力が認められたことと思います。

スポーツ界ではサッカー、ラグビーのW杯の試合が北海道で行われたこともあり、

流行語「ONE TEAM」と共に大いにわきました。

今年のオリンピックでは、瓢箪から駒のようにマラソン、競歩の札幌開催が決まり、道民の多くがめったにない観戦、応援の機会が棚ボタ式に舞い込んできました。

そして道岳連は競技団体でありますから、クライミング競技には、ぜひ、熱烈応援の声をあげましょう。

さて今年役員改選期になり、昨年12月の会議で持ち越しになった、推薦候補について1月の常任理事会で最終判断します。

現常任理事会は3月末まで予定されている行事、事業の実施に努力します。

次年度方針については次期会長及び常任理事会の方針に委ねますが、次の点の検討をお願いしたい。

- 1 北海道山岳連盟の法人化について（社団、NPO、等）
- 2 加盟団体の活性化について（高齢化、少子化、個人会員等）
- 3 登山研修所について（継続、廃止等）
- 4 組織の見直し（地方岳連、委員会等）

終わりにあたり、登山界を取り巻く環境は厳しい状況ですが、加盟団体、会員がONE TEAMの精神で、北海道山岳連盟のご支援、ご協力お願いいたします。

2019山の日記念登山



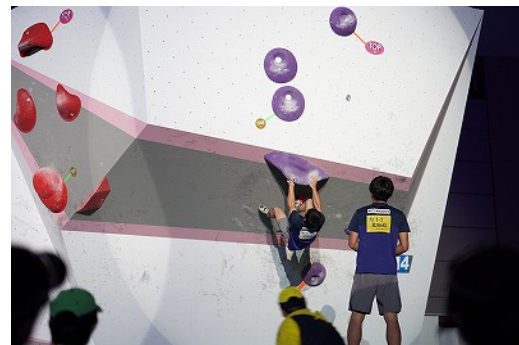
本年で「山の日」が制定され4年目となり、道岳連もこの日を記念して、一般の方々の山登りへの関心を高めるべく加盟団体へ公募登山、市民登山等の実施を呼びかけている。

本年度は、13団体が実施しその報告を「それぞれの山」として冊子にまとめた。実施団体は以下のとおりとなっている。

南ペトウトル山…釧路山岳連盟、標津岳…釧路山遊会、桂山…函館マウンテンクラブ、ニペソツ山…釧路山の会白湯山俱樂部、塩谷丸山…恵庭山岳会、室蘭岳…室蘭山岳連盟、カムイヌプリ…登別山岳会、旭岳～裾合平…札幌山の会、斜里岳…釧路山遊会、稀府岳…札幌山岳連盟、三国山…釧路山岳連盟、樽前山・錦岡コース…苫小牧山岳会、利根別自然林…岩見沢山岳連盟

第74回国民体育大会(茨城国体)SC競技

第74回国民体育大会のスポーツクライミング競技は、令和元年10月4日から6日の3日間茨城県銚田総合公園体育館ほかで開催され、北海道選手団は4種目で入賞を果たした。



茨城国体を振り返って 成年男子監督 石井 明彦

1 競技名の変更

今国体から競技名が「山岳」から「スポーツクライミング」に変わりました。元号が令和になって新たな歴史を創る1ページの始まりです。

2 ルールの変更

競技ルール of I F S C 化が進められました。リード競技は予選競技がフラッシュとなり、前回大会までは同一県の2名の選手が左右のルートと同時に登っていましたが、今回は予選左ルートの競技順は、共通規定19条に定められた抽選会で決定し、右ルートの競技順は左ルートの競技順を、半数で前後を入れ替えたものとなりました。

予選、決勝とも競技順が奇数のチームの枝番1番の選手は左ルートを、枝番2番の選手は右ルートを登り、競技順が偶数のチームの枝番1番の選手は右ルートを、枝番2番の選手は左ルートを登る。



北海道選手団 天皇杯 7位

なお、成年男子予選においては、左ルートの競技順で登るルートを指定する。という競技順に変更となり、文章を読むと理解するのに時間がかかりましたが、事前に競技順がHPで公表されたため助かりました。

また、最終オブザベーション時間40秒は、競技時間に含まれない。順位の設定は、二人の選手の順位ポイントを相乗し、その数字でチームを決定する(小さい方が上位)。

ボルダリング競技は、競技時間が2課題を6分から5分に変更になり、二人の選手のトライ数や精神的負担が増大しました。

3 4年ぶりの天皇杯入賞

成年男子 (杉本 怜、武者知希)	リード	5位入賞	ボルダリング	2位入賞
成年女子 (北谷未沙、東さくら)	リード	16位	ボルダリング	16位
少年男子 (坂本大河、竹内悠真)	リード	10位	ボルダリング	4位入賞
少年女子 (吉田ゆな、上原子音羽)	リード	13位	ボルダリング	16位

男女総合成績 天皇杯 7位

成年男子は杉本、武者両選手が世界で戦っている力を見事に発揮してくれました。

ボルダリング競技では、武者選手は個人順位1位で杉本選手は3位と予選1位で通過しました。各県の強豪選手からは武者選手の強さに驚きの声が上がっていました。決勝ではトライ数により惜しくも2位となりましたが、午前中にリード決勝を5位入賞してからのボルダリング決勝だったので、本堂トレーナーから丁寧な施術を受け、回復させて力強い登りをしてくれました。

少年男子は、今年、世界(ユースボルダリング、イタリアアルコ大会)にデビューした坂本選手と、その次を追う竹内選手が3年連続でチームを組み、リード競技では第10位とあと少しで入賞でした。ボルダリング競技では予選2位通過、決勝4位と入賞を果たし、応援にも力が入りました。坂本選手は個人順位3位、竹内選手は12位と二人とも実力を発揮しました。

成年女子は、北谷選手、東選手の遠軽高校OGのコンビ。少年女子は、共に国体初出場の吉田選手、上原子選手の中三コンビ。両チームとも全国のレベルが高く、予選敗退となりましたが、今回の経験を活かし今後も活躍してほしいと思います。
今大会は、男子の健闘があり4年ぶりの天皇杯7位入賞となりました。

北海道トレイルランニング大会2019

北海道アウトドアフェスティバル in ルスツは、同実行委員会が主催、北海道山岳連盟・北海道オリエンテーリング協会が共催し、9月21日ロゲイニング、22日トレイルランニングを尻別岳・ルスツリゾート周辺で開催した。種目は60km、30km、15km、5km、キッズの5種目で、過去最高の530名が出場した。早朝3:30スタートの60km男子は反中祐介選手(salomon)が7:18:27、女子は谷口三佳選手(valley)が8:49:12で優勝した。

北海道山岳連盟は、共催団体として今年も70名のスタッフを派遣し大会を支えた。



男子30kmのスタート



坂を登る選手

令和元年度 JMSCA 安全登山指導者研修会「東部地区」

概要報告 …… 北海道山岳連盟

山岳遭難事故が全国的に増加傾向の中、令和元年9月14日(土)～16日(月・祝日)、北海道東川町と、北海道最高峰・旭岳で「安全登山指導者研修会(東部地区)」が開催された。

旭岳2291mは大雪山国立公園の最高峰、今なお噴煙を上げ大山の風格を備えている。登山ルートは、東川旭岳温泉からロープウェイで姿見の池駅1600mに至り、そこから登山道は高山植物帯、続いて火口壁に沿って火山礫、砂礫の急登に入り、回り込んで山頂に達する。標高差は少なく距離も短い、悪天に見舞われ、登山道を見失う遭難事故が発生しやすい。ロープウェイで簡単に高度を稼げるため、レジャー気分の登山者も見受けられる。いろいろな観点から、旭岳周辺は安全登山研修会に適したエリアといえる。



研修会開講式

従事する警察官など 26 名。講師陣は、安全登山各分野の専門家の皆さん。計画段階で安全登山を検討することはもちろん、仲間が遭難した場合や、遭難者を発見した場合、いかに素早く現場対応するか、また、安全に山から降ろすか、そのための具体的な行動が研修プログラムに盛り込まれる。救助者の実践可能なアイデアも加味される。

第 1 日は、厳しい条件の下で山岳救助活動を行う北海道警察ヘリ部隊の航空専門官・尾崎雅義氏と、山岳救助隊指揮官・松本孝志氏の講義。山岳遭難に欠かせないヘリコプター救助技術と危険性、遭難事故の多いトムラウシ山での最新事例、厳冬期の山岳救出等、映像を交えて紹介された。

転倒、道迷い、低体温症がワースト 3 の旭岳遭難事故に関し、大城和恵講師（国際山岳医）は、登山のファーストエイドに当って、SSS+ABCDE の反復練習することが肝心と説く。研修生は声かけしながら実習を繰り返した。

次に 3 班に分かれ、明日予定する旭岳登山の具体的なプランをディスカッション。渡邊雄二講師（国立登山研修所アドバイザー）からは、登山リスクを減らす基本的な考え方が披露された。

第 2 日目、旭岳登山しながら実習。昨日のグループ討議に基づき、適度に休憩を取りつつ登る。迷いやすい地形も確認、帰路は読図、低体温遭難者（意識なし）の SSS+ABCD のチェック訓練、足の捻挫の救助では緊急対応（処置）後、遭難者搬出訓練を行った。

最終日は、研修テーマ P D C A サイクルのうち、P 計画、D 行動を踏まえて C 評価と A 改善について

グループ討議。ファーストエイド練習不足を指摘する意見も出たが、改善点を見いだす成果も発表された。渡邊講師は「山岳での救助活動は、遭難者の処置前に自分たちの安全確保が大事と加える。

「トムラウシ山過去の事例解説」（大城講師）では、その山の持つ厳しい要因が指摘され、続いて明日から 2 泊 3 日旭岳～トムラウシ山縦走を想定してグループ討議（P 計画）。「気象の基礎&トムラウシ山遭難の気象解説」森山知洋講師（気象予報士）は、2 日目の夕方から気温が下がり降雪、3 日目も不安定な天気を予想する。それら事前のリスク情報を得て、各班のトムラウシ山縦走計画発表は盛り上がった。

安全登山指導者を目指す研修生には、日を迫うごとに研修内容が整理・理解され、各自の目線にも沿う大変有意義な研修会になった。ご尽力いただいた講師の皆様、関係者、熱心な受講生に感謝

今年の研修テーマは「遭難事例に基づき、P D C A サイクルを活用しよう！」となっている。山岳遭難に多い〈道迷い〉〈低体温症〉〈足首捻挫〉に焦点を合わせ、その防止策と発生時の対応を、グループ討議や実際の登山行動の中で身につける内容だ。P D C A サイクルとは、P=plan 計画、D=do 行動、C=check 評価、A=act 改善、安全登山は、それらを確実に実行することとされる。

研修生は東日本各地の山岳会員、高校山岳部顧問、町村行政の野外活動指導者、山岳救助活動に



足首捻挫の応急処置

を申し上げる。

開・閉会式では国立登山研修所・藤原所長、日本山岳・SC協会・八木原会長、水島登山部長、北海道山岳連盟・小野会長、また、旭岳ビジターセンター・三島所長にもご挨拶をいただき、ありがとうございました。



研修会の講師・参加者・スタッフ（東川森林体験研修センター）

行事・各種事業報告

第2回理事会 10/6 札幌市教育文化会館

令和元年度北海道山岳連盟第2回理事会は、札幌市教育文化会館で47名（委任状28）の理事が出席して開催された。議件として1号議案 令和元年度前期を振り返って 2号議案 令和元年度前期事業報告について 3号議案 令和元年度後期事業予定について 4号議案 備品報告書 5号議案 各種議題 6号議案 その他 が提案された。

小野会長は、上期事業に関して天候、集客運営面などほぼうまく回ったこと及び日本山岳・スポーツライミング協会の現状にも触れた。明田理事長は、令和元年度の前期を振り返り、成果を上げた事業の紹介、交流登山会の引き受け団体の課題、若手の育成、安全登山の啓発活動の充実などについての総括があり、拍手で承認。

2号議案、3号議案は各専門委員会委員長からそれぞれ報告・提案されたが特に質疑はなし。6号議案は、全国高校総体登山大会が令和5年に北海道で開催決定、道岳連の協力要請、次年度の道岳連役員改選、日高登山研修所の利用低迷による撤退の検討などを協議し閉会した。



日高登山研修所納会 11/2-3 日高登山研修所

日高研修所納会は、加盟団体会員 41 人が参加した。例年どおり受付後に内外の大掃除、冬囲いを行い、16 時からは明田理事長が「夏山リーダー制度」についてスライドを交えて講演。17:30 からは懇親会、会場には先の茨城国体 S C 競技の賞状も飾られた。今回の食事担当はロビニア山岳会の皆さん、そして帯広の西谷さんの手打ちそばが振る舞われた。

二日目、近郊の於曾牛山登山、スポーツライミング、ロープワークに分かれて安全登山研修を行い解散した。

参加者感想

於曾牛山 小樽カンカアル山岳会 酒 谷

11 月 2 日(土)～3 日(日)日高研修所納めに初参加しました 2 日(土)は掃除・研修会・懇親会 ロビニア山岳会の方達が山菜の天ぷらやサラダなどを作ってくれまして、手作り蕎麦まで振る舞っていただき感謝感激の懇親会でした。翌日は於曾牛山(おそうしやま)登山とのことで、飲み過ぎないように、ほどほどにして就寝しました。

翌日は天気に恵まれ、聞いたことのない山に登れるのでわくわくしています。幌尻岳・額平川コースの登山口方面に車を走らせて、途中右に曲がって、狭い林道を走ると少し広い場所があり、ここに車を置いて登山開始です。9 時 10 分、標高 265m あたりから登り始め、最初から急登で標高をグングン稼いで歩き始め、1 時間半程で標高 627m に到着。



於曾牛山頂上稜線

望を見て思い出すのは、約 10 年前に幌尻岳の計画を立て、登るよりも苦勞する山小屋の予約をして、さあ・・・と思ったら雨で中止が 2～3 度ありました。それから幌尻岳の話も出なくなり、いまだに登っていない山です。再度チャレンジしなければ、と改めて思いました。

下山は滑るのでとにかく慎重に下りました。ストックはザックにしまい、手で笹を掴みながら慎重に下りました。たまに裏切られて、スポッと抜けてしまう枝を掴んで、ズルッと滑ったりしながらも、約 1 時間半後に登山口に到着しました。

天気に恵まれ、珍しい山に登れてとても充実した山行になりました。皆様お世話になりました。又機会があったらよろしくお願ひします。



石井副会長の音頭で乾杯！

前日に登山道の無い山と聞いていたのですが、踏み跡は結構しっかりありました。ここからは地図でも分かるように、なだらかな登りに変わります。リーダーの明田さんは、「627 m に着いたら、もう頂上に着いたようなもんだ」と言っていました、中々頂上には着きません。

頂上の見えない山に登ると、コブが見えるとあれが頂上だと期待しましたが、そう簡単には頂上には着かせてくれる事もなく、それでも 1 時間後に三角点に到着しました。頂上からは日高幌尻や戸蔦別岳の素晴らしい展

冬季遭難対策研修会 12/7-8 十勝岳・大雪青少年交流の家

令和元年12月7日～8日にかけて、冬季遭難対策研修会を開催しました。一般5名会員8名、講師5名の参加者があり、今回は冬山経験がまだ浅い参加者が多く、研修内容も基本に近い内容としました。

十勝岳周辺は積雪1m -7℃と寒い日でしたが、大雪青少年交流の家の広場を使い、アバランチトランシーバのセンド・サーチの確認、集団捜索で大事なオンオフが適正に行われるかなどの研修を行いました。人数が多いとなかなか近くで電波が鳴り止まない数回の調練で統率がとれ、捜索訓練ができました。

室内では低体温症について、過去5年間の遭難状況を取り上げ、山の標高や年齢に関係なく積雪期に低体温症は多く発生すること。深部の変化とともに起こる症状、温度変化に弱い脳と心臓、ガイドラインに基づく処置などを学習しました。クランポンは種類と装着方法、靴に合わせ事前のバンド調整、装着場所の注意点など。ピッケルの選び方とバンドの調整、安全な滑落停止の姿勢説明などを行いました。

食事の後は、救助を待つ間のツェルトを使った隔離と保温、プラティパスによる加温と救助を行うための搬送時のシートラップなど実践を想定して行いました。

2日目は、曇りで-10℃とさらに寒い日でしたが、同じく施設周辺にてクランポンの斜面歩きと急斜面での安全な装着場所作りを行いました。ピッケルによる滑落停止の実習は、転倒と同時にピッケルを打ち込み、クランポンを食い込ませ加速させない滑落停止練習をしました。研修は、冬山で自身の命を守るために最低限必要な研修となりました。

講師：齋藤邦明、仲井信夫、為野宜巳、潮田 満、向川司郎 （報告 遭難対策委員長 齋藤邦明）



室内研修



室内研修を実践

夏山講習会 Part 3 9/7-8 黒岳、赤岳・白雲岳

日 時 2019年9月7日(土)～8日(日)

宿泊場所 層雲峡オートキャンプ場テントサイト・バンガロー

参加者 個人会員12人、スタッフ4名 合計16名

9/7(土) 朝6時30分に札幌駅北口で今回参加者のTさんと、常連のIさんを乗せて高速で層雲峡黒岳ロープウェイ駐車場に9時30分到着する。雨の中の運転でモチベーションが今一でしたが、参加者の皆さんと会うと気分が爽快に。

今日は足慣らしという事で、開会式後 10 時発のロープウェイに乗り、更にリフトで七合目終点駅に着くと、いよいよ黒岳に向けて登山開始。今回プライベートで飛び入り参加の I さんと、初登山の娘さんが同行。超美人の娘さんは既に結婚されているとの事で、旦那さんがうらやまし… 途中何度か休憩をとり、多くの登山者で賑わう頂上には一時間半程で着きました。頂上からの眺めは雲に覆われていたが、風が無かったのでゆっくり昼食を食べ、時々色づいた景色が見え隠れしていました。



霧の中を黒岳へ

下山後、今晚宿泊地の層雲峡オートキャンプ場へ行き、参加者はバンガローとテント組に分かれて設営、その後豪華バーベキュー準備が整った所で全員乾杯コール。前回のトムラウシ登山ビデオが最新機器のため撮影できず残念、その代わりにテント内での用足し失敗談や、その他楽しい話で盛り上がり、あっという間に早めの就寝時間、明日の長い行動予定のため、21時半にはほぼ全員が消灯熟睡状態になりました。

9/8 (日) まだ昨日の余韻が残る 4 時起床。天気は良さそうで朝食及び出発の準備を済ませて、各自の車で銀泉台へ向かう。6 時 15 分に登山口に着くとすでに 20 台ほど車があつて、我々も直ぐに身支度を済ませて赤岳に向けて出発。紅葉が朝日を浴びてとても美しい登山道を進むと、第一、第二花園、二時間ほどでコマクサ平を通過し、秋晴れの中大雪の最も美しい季節の赤岳頂上に 9 時 40 分に到着し、休憩タイム。ここで女性軍と分かれて、馬力ある男性軍は一路本日の目的地白雲岳目指して 10 時 10 分に出発。小泉岳分岐、白雲岳分岐を経由して 11 時 15 分についに頂上に到着する。360 度の大パノラマをしっかりと目に焼き付け、記念写真を撮って下山開始。小泉岳、赤岳を経て登山口 14 時 50 分無事全員到着、閉会式後再会を誓って、今回は三々七拍子で解散となりました。



赤岳第四雪渓付近の紅葉

スタッフ 横山 温、細木 輝雄、橋本 一郎、横山 泰子 (報告 普及委員会 細木 輝雄)

参加者感想文 夏山講習会 Part 3 に参加して 記 山西

トムラウシ山テント泊山行に続き参加しました。

2 年前は台風、昨年は胆振東部地震の影響で共に中止となり、今回も台風が発生しており進路予想は北海道から外れているものの影響がないか心配していたが、ほとんど影響なく良かったです。

1 日目の「黒岳」の天気は、時雨模様で視界はあまり良くありませんでしたが、2 日目の「銀泉台～赤岳～白雲岳」は天気が回復し秋空の中、銀泉台/赤岳の紅葉と赤岳/白雲岳頂上からの景色は視界良好で斜里岳、トムラウシ山、十勝連峰等がくっきり見られて気分も高揚し充分満足しました。

またスタッフの皆様、BQ の準備手伝われた方、差し入れされた方には美味しい食材、お酒を用意して頂き楽しいひと時を過ごさせてもらいました。ありがとうございます。

9 月 7 日 (土) 1 日目・・・黒岳往復

7 時 30 分に家を出てから途中一時強い雨に会い、今日の登山は中止になるかと思いつつ黒岳ロープウェイ駐車場に到着。幸い雨は小降りになっていてロープウェイ、リフトを乗り継いで予定通

り登山スタートしました。視界は良くなかったが、頂上では一時的に雨が上がり昼食を取りその後下山。登山道は歩き易く明日への足慣らしには丁度良い運動になりました。

下山後は黒岳の湯で汗を流し層雲峡オートキャンプ場へ移動、寝具を定員4人のバンガロー内にセット。旭川に住んで15年ですがこのキャンプ場は初めて訪れました。広くてよく整備されており、車もバンガローサイトまで着けられてとても便利でした。夕食/懇親会のBQ会場では、飲み食いしながら色々な話に盛り上がり、特に前回山行のトムラウシ山テント泊での貴重な体験談と対処方法については、一つの方法として教訓になりました。また、スタッフが準備したプロジェクターで10年ほど前の「銀泉台～赤岳～白雲岳」山行記録を上映して貰いました。前回のトムラウシ山行記録も上映される予定でしたが、プロジェクターがメモリーカードを読み込めず断念。見たかったあ！翌朝が早い為、話題は尽きませんでした。21時過ぎにはお開きになり、各々指定場所で就寝。

9月8日(日) 2日目・・・銀泉台～赤岳～白雲岳往復



白雲岳頂上の男性軍

4時に起床、早くから準備して頂いた朝食を順次BQ会場で取る。炊き立てのご飯に生卵、味噌汁、漬物とても美味しかったです。5時過ぎに各自車でキャンプ場を出発し黒岳無料駐車場へ、そこから相乗りでいざ銀泉台駐車へ。道中霧がかかっていたが、銀線台に近づくにつれ青空が見えてきて今日は快適な登山に期待が膨らみました。

6時30分赤岳登山口スタートし、しばらくすると第一花園に差し掛かり紅葉が山の斜面に広がってとても奇麗でした。さらに歩を進め、赤岳頂上から白雲岳頂上へと順調に歩きました。白雲岳頂上からの景色は視界が良く清々しい気分になりました。女性軍は赤岳頂上で引き返しましたが、男性軍は全員白雲岳まで到達し、ほぼ予定時間に無事下山しました。登山道も歩き易かったです。全員揃ったところで銀泉台駐車場にて修了式、三々七拍子で解散。

自然保護指導員の集い 10/13-14 増毛山道

自然保護委員会が主管する「令和元年度自然保護指導員の集い」は、10月13日(日)～14日(祝)の二日間にわたり「増毛山道」を会場に開催し、道岳連会員18名、現地講師2名を含め計20名で実施した。

日本海に面し断崖絶壁が続く雄冬海岸は昭和56年に国道231号が全面開通するまでは交通の難所で、この海岸線を迂回すべく、安政4年(1857年)に江戸幕府の命を受けた増毛漁場請負人の商人伊達林右衛門によって開削された道路が「増毛山道」である。その後、鉄道など交通手段の発達により、戦後はほとんど利用する人もなく、笹藪に埋もれていたが、平成21年度から山道の位置を特定し再生作業を開始、平成28年10月増毛町別荘から石狩市浜益区幌までの27km(岩尾分岐道を含むと32km)の全線が開通し、増毛山道の復元が完了した。

この山道は一般登山道とは異なり、非公開ルートもあるので事前の確認が必要となる。「NPO法人増毛山道の会」が主催するガイド付きトレッキングツアーが、令和元年度は8回ほど組まれており、初心者から上級者までのルートが設定されている。

1日目・・・15時に浜益区幌のワタナベ商店駐車場に参加者が集合。今回の現地研修ルートは、増毛町岩尾を起点とし、岩尾分岐～雄冬山～浜益御殿～国有林入口(幌からの自動車道終点)としたた

め、下山口の国有林入口の駐車帯に札幌周辺参加者の車を移動、車を置いた参加者を旭川周辺からの参加者の車に乗せ、宿泊先の岩尾丹保旅館に向かった。

17時過ぎから増毛山道の会小杉忠利事務局長が、スライド映像で山道の歴史的価値や藪に覆われたルート特定する際の苦労など、整備の状況を説明。関係機関からの数々の功労表彰や、平成30年11月には「北海道遺産」に選定されたことも紹介された。その後、講師も含めての夕食・懇親会、明日の長丁場に備え早めの就寝となった。



2日目 … 6時5分に旅館前を出発、天気は良いが

夕刻には雨の予報。ガイドは増毛山道の会佐藤精久(よしひさ)さん。岩尾起点は旅館前の道路をやや登った民有地境界付近で、海拔44m。最高到達点の雄冬山(1198m)との標高差は1154mになる。佐藤さんの解説によると、山道は生活道路であることから、急な斜面や尾根を避けて極力風の影響を受けない山裾を巻くように付けられ、背の高い根曲り竹の道は展望のきく撮影ポイントは少ないとのことだった。

岩尾から岩尾分岐までの5.6kmは雰囲気の良い樹林帯の道で、当時の電信柱や碍子なども見られ



増毛天狗岳(973m)南斜面の紅葉が美しい。

山道のルート上には、赤い円形の案内板があって、ルート起点の名称を頭に(別荘→B)アルファベットと数字で160m、200m間隔で表示されている。岩尾分岐を過ぎて少し歩くとログハウスの避難小屋と全線復元記念植樹をした広場に着く。目指す雄冬山も望めるがまだかなり遠い。

ここから先は最近刈分け整備をしたらしく、笹がきれいに刈られていた。山道開削時に道幅を2間(3.6m)に設定していて、ほぼ忠実に整備がなされ刈った笹も道の脇に整然と寄せられていた。この労力や半端ないもので、維持管理に携わる山道の会の皆様には本当に頭が下がる。「仏の台座」「1等水準点」などポイントごとに佐藤さんから説明があり、やがて雄冬山分岐(1032m)に到着する。分岐から雄冬山山頂までは、山道とは別に新規に登山道として開削した片道400mの歩道で、山頂には「林右衛門座所」と書かれた木柱が立っている。ハイマツを少し漕ぐと三角点石標と簡素な頂上標識もある。積雪期にしか登頂できなかった雄冬山からは、増毛山地の大展望が広がり、主峰の暑寒別岳、南暑寒岳、奥徳富岳、群別岳、浜益岳、浜益御殿、そして西には日本海が望める。



雄冬山山頂からの展望

分岐に戻り、浜益御殿までの吊尾根を170mほど下り登り返す。既に12kmを超える距離を歩いているが、参加者は元気に歩を進め、最後のピーク浜益御殿(1039m)に14時15分着。10月に入るとどんどん日が短くなる。本日のこの付近の日の入りは16:53で、車を置いてある国有林入口までは

まだ 3.8km あるので先を急ぐ。

豪雪地帯の増毛山地独特の大きく湾曲したダケカンバの樹林帯を縫い、15時50分に国有林入口に無事下山、歩行距離18.5km、行動時間9時間45分の「増毛山道 岩尾～幌ルート」であった。駐車してある車に分乗してワタナベ商店駐車場で閉会式を行い解散。旭川方面組が岩尾に戻り帰路につく17時頃には天気予報どおり雨となった。

(報告 自然保護委員会 内藤 美佐雄)

第18回スポーツクライミング北海道選手権大会 兼第10回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会 兼第60回札幌市民体育大会クライミングコンペ 11/10 北海道科学大学

参加者数 選手 オープン 5名 ジュニア男子 27名 ジュニア女子 20名
ビギナー 7名 キッズ 16名

《オープン男子》	《オープン女子》	《ジュニア男子》
1位 岸本 武蔵	1位 東 さくら	1位 坂本 大河
2位 小林 大騎	2位 佐藤いぶき	2位 竹内 悠真
3位 大熊 達也		3位 丸尾高士朗
《ジュニア女子》	《ビギナー》	《キッズ》
1位 福井ころろ	1位 小貫 七海	1位 泉 凛々愛
2位 藤原 百葉	2位 石川 真哲	2位 下山 士和
3位 上原子 瞳	3位 豊田 裕之	3位 酒井 彩羽



その他の行事・各種事業

- 9/13-17 JOC ジュニアオリンピックカップ大会兼道外合宿 富山県南砺市
- 9/15-16 国体選手強化道内合宿 美唄市
- 9/28-30 第58回全日本登山大会岐阜大会 岐阜県 乗鞍岳他
- 11/9 自然保護委員総会 宮城県石巻市
- 11/14 北海道山岳団体交流会 札幌市
- 12/21-22 第10回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 埼玉県加須市
- 7/13-12/15 日本スポーツ協会公認山岳コーチI養成講習会 エルプラザ他
- 7/13-12/15 日本スポーツ協会公認スポーツクライミングコーチI養成講習会 同上

今後の諸行事

氷壁技術講習会 (指導委員会・海外登山委員会)
令和2年1月12日(日)～13日(祝) 層雲閣グランドホテル・錦糸の滝

札幌地区雪崩研修会 (札幌山岳連盟・日本山岳会北海道支部)
令和2年1月18日(土)～19日(日) きょうどう山の家・冷水峠周辺

冬山講習会 Part 1 (普及委員会)
令和2年2月8日(土)～9日(日) 京極山荘・羊蹄山

山岳スキー(氷雪)技術研修会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)
令和2年2月15日(土)～16日(日) 白銀荘・三段山

JMSCスポーツクライミング部ブロック別研修会 (国体委員会)
令和2年2月22日(土)～23日(日) 札幌エルプラザ

冬山講習会 Part 2 (普及委員会)
令和2年2月22日(土)～23日(日) 室蘭ユースホステル・室蘭岳

山岳スキー技術養成講習・検定会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)
令和2年2月29日(土)～3月1日(日) 日高青少年自然の家・日勝ピーク

冬山講習会 Part 3 (普及委員会)
令和2年3月14日(土)～15日(日) 白銀荘・三段山

エヴェレスト街道～カラパタルトレッキング (海外委員会)
令和2年11月19日～12月4日 (※先行予約⇒3月末締切)

第3回理事会
令和2年4月12日(日) 札幌市(会場未定)

令和2年度総会・第1回理事会
令和2年5月17日(日) 札幌市(会場未定)

★ 詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の要項を確認ください。

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.88 令和2年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄